

会計検査本部阻止

全学の学生教職員皆さん。この14日から15日にかけて、会計検査院が京大を訪れます。会計検査院と言えば多くの皆さん「政治性抜きの『中立』な目で監視する」という様に理解されているかもしれませんか? はたしてそうでしょうか。

例えば改めてばかりでおられる労働者の人々を見てみましょう。彼らは過去長い斗争により、自ら権利を勝ち取ってきたわけです。それらの多くは公務員の空出張で賄われ、定員は臨時という形で確保されてきたわけです。しかし、会計検査院によると、臨時は当然から人件費ではなく、物品費として計上されており、休暇や夏休みと同様「不正使用」と決めつけられ、労働者は休みがほとんど、あるいは望む日にどれず、臨時に後任を補充されず、他の人の労働強化を進める結果となる、というのです。

自ら招いた危機や矛盾を、会計検査院をテコとして、文字通り「物品」として労働者を切り捨てるここと乗り切ろうとしている学生部は会計検査院を積極的に利用しているのです。

会計検査院を利用して権利化を進める文部省・学生部
京大の対応においては学生の自主管理により運営が進められており、問題点は当局との話し合いでより解決してきました。すなわち、物品に廻しては必要なものを要求し、必要な所におさめ、その他負担区分についても話し合いで解決してきた問題ですし、室内労働者も必要な権利を獲得してきたわけです。ですから、今問題が生じて改めるべき点が生まれたならば、再び我々と学生部との間で話し合い、解決を求めていくべきであり、それが実質的自主管理に対する当然の対応であるわけです。

しかし現学生部は話し合いのポーズを作りつつ、話し合いと破壊する行為をし、結局話し合ひなしに自分の好き勝手で、すなわち文部省の方針そのままを決定

事実として押しつけ、あるいはうそをしてるわけです。その口実となっているのが「会計検査院」です。この場において会計検査院は明らかに「中立」などというものはありません。その裏には、文部省・政府の「ス黒い政治的野望」がハッキリと確認でき、「中立」のマントをきて学生部を援助しているのです。

① 改めて自主管理を破壊する会計検査院

このような学生部の態度は「大学での決定は、学生との話し合いによる決定よりも会計検査院の指摘が優先する」という先の12・15弾圧判決内容と同じです。これは当筆者である人自身との話し合いで、「どう行なおかなければ内容のものでも文部省の言うことを廟り」という明らかに実質を葬り去るものである。

学生部は今や全くの官僚の巣となり思ひのままに大学を管理、再編しようとしているわけです。

我々は、この点が「中立」の隠れニミと見た会計検査院を口実とした学生部の態度を許すことにはできません。問題を解決するためにはまず第一に公用の場での話し合いで学生部長が行い、会計検査院を理由にして一方的決定を強行するのは、自主管理破壊のまにものではありません。

我々吉田対は学生部長に直ちに会計検査院を恫喝とした攻撃をやめ、公用の場での話し合いと設定することを要求すると共に、会計検査院拒否を宣言します。

☆会計検査院禁止

☆国交戦取

☆炊ア後任補獲得

8/10/09

吉田 審幸丸行年